

メイド・イン  
ウチナー建材

さて問題。波や三日月、ダイヤ...これらに共通するものは何？ 答えは花ブロック。コンクリート住宅の壁や塀でおなじみの建材は、戦後生まれのれっきとしたウチナームンだ。製造者や建築士の話からは、風を通しながら目隠しや防犯を兼ね、多彩な模様で外観の表情を豊かにしてくれる独特の魅力が伝わってくる。(我那覇宗貴)

# 魅力再発見！ 花ブロック

製造者・安里亨氏

デザインは100種類

西原町小那覇にある(資)山内コンクリートブロック。県内で製造される花ブロックの約80%が、同社製だ。

安里亨社長(61)は「そもそもコンクリートブロックの県内での製造は、1948(昭和23)年、軍の施設や住宅などの建設を目的に、米軍の沖縄地区工兵隊が製造機を導入したのが最初です。その後、戦後の沖縄を代表する建築士・仲座久雄氏が、光や風を通しながら目隠しもする建材として『異型ブロック』の名称で花ブロックを考案。1956(昭和31)年に建てた同氏の自社ビルでも、使われています」と説明する。

花ブロックの材料は、セメントに、潮抜きした海砂、強度を高めるための砕砂(さいさ:本部石灰岩を細かく砕いた物)。それらを金型に入れ震動を与えながらプレスし、型から外す。養生室で一晩乾燥させれば完成だ。

作業は一つひとつ人の手で行われていて、金型も熟練した職人が作ったオリジナル。また100種類以上の豊富なデザインも特徴で、十字型に模様が入った物、ブロック自体が三角形や平行四辺形の物など、さまざま。「素焼き風の茶色や赤茶に着色することはもちろん、別料金でオリジナルデザインの花ブロックを造ることもできます」

デザインの多彩さが、周知されていないことなどを背景に、近年、県内での需要が減ってきている。「赤瓦が古のウチナーヤーのシンボルなら、花ブロックはコンクリート建築が普及した戦後復興のシンボル。夜、照明で浮かび上がるシルエットの美しさは、花ブロックを使った外観ならではの美しさ」と話した。

ヤードに所狭しと積まれた花ブロックは、今か今かと出荷を待っている。



「ブロックは、出荷しやすいよう数十個単位で並べます」と安里社長=西原町小那覇の工場



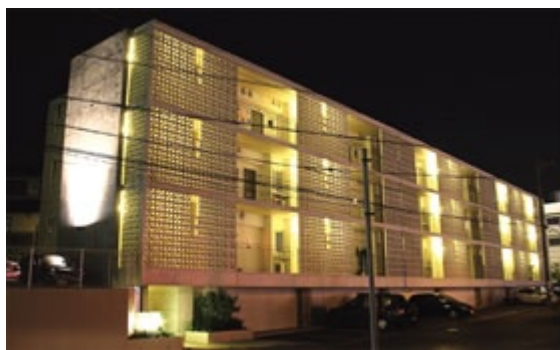
デザインも100種類と多彩なのが、花ブロックの特長



仲座氏が設計した、同氏の自社ビル(1956年)。円形や四角などの花ブロックが大胆に使われている(所蔵=沖縄県立博物館・美術館)



昼間の外観。バルコニー前面の花ブロックの壁が、影によって市松模様のように見え、表情豊かに(上・下左の写真とも、撮影/伊良波朝義氏)



伊良波氏が設計した集合住宅の夜の外観。廊下の照明の光が、花ブロックのすき間から漏れて優しい印象を与える



金型作り40年の金城親直さん(73)。熟練した職人の腕も花ブロックの製造を支えている=西原町小那覇の工場

建築士・伊良波朝義氏

## 涼風呼び 干し場に最適

「花ブロックほど、機能性と美しさが両立した建材は、ほかにないと思います」と語るのは、伊良波朝義(43)一級建築士((有)義空間設計工房代表取締役)。住宅や集合住宅の設計に、花ブロックを積極的に取り入れている建築士の一人だ。

その理由は、実家で暮らしていたときの体験から来ている。「寝室の出窓に目隠しとして使われていたのですが、泥棒に入られる心配をしないで一晩中窓を開け放っていたので、クーラーを使わず快眠できたんです。集合住宅のバルコニーの前面は、腰壁か手すりになっていることが多いですね。腰壁だと、一番涼しいはずの足元からの風が遮られてしまうし、手すりだと風は入るけど、外から丸見えになってしまう。花ブロックだと、風通しと目隠し・防犯が一度にできるし、壊れにくい。コンクリート自体は無機質なので、耐久性も高いんですよ」と説明する。

設計した集合住宅の外観には、自らデザインした緋(かすり)をモチーフにした花ブロックを使用。昼は影で市松模様が、夜には模様のすき間から光が漏れる優しいたたずまいに、思わず見入ってしまう。「現代の建物にもデザインとして十分マッチすることを、多くの人に知ってもらいたいとの思いがありました。遠くだと均一に見える花ブロックも、一つひとつよく見ると、微妙に仕上がりが違う。手作り感が伝わってきます」と目を細める。

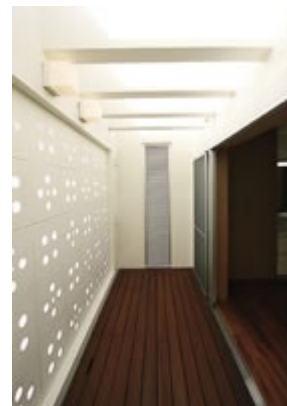
効果的な使い方もアドバイスしてくれた。「日差しが室内に直接入る東



「風を通し緩やかに目隠しする花ブロックは、バルコニーをより使いやすくします」と伊良波氏=那覇市真地の集合住宅

西の壁に使うのもいいですし、例えば物干し場でトップライトと組み合わせた使い方だと、日差しと風が通って、洗濯物の乾きがより早くなります」。また住宅密集地でコートハウスにする場合でも、中庭に面した個所に使えば圧迫感が和らぐほか、室外機や雨どいの目隠しにも適しているという。

「エコやプライバシーの確保という現代の住宅のニーズに、応えられる建材だと思います」と伊良波さん。どう使うかが、設計者の腕の見せどころといえそうだ。



物干し場の壁に花ブロックを使い、トップライトを設けた住宅(撮影/伊良波朝義氏)

### 花ブロックができるまで・・・



#### (1) 材料を流し込む

セメントに、潮抜きした海砂、強度を高めるための砕砂を金型の中に流し込み、振動を与えながら固める



#### (2) 裏返してプレス

フタをして金型そのものをひっくり返す。さらに専用の機械でプレスして固める



#### (3) 金型から外す

プレスして固められた後は、金型から外す。上に見えるのが金型で一つひとつが手づくり



#### (4) 自然乾燥させ完成

花ブロックを棚に移し、一晩自然乾燥させて完成。デザインにもよるが、1日200～300個の製造が可能